

レッテル貼りは問題

こはら・かつひろ 専門はキリスト教思想・宗教倫理・一神教研究。2010年から同志社大・一神教学際研究センター長。49歳。

対し、理解ではなく、不信感や敵意を強めるからだ。私は、宗教の違いに関係なく、人間は暴力的で不寛容になる場合がある、と考

えら。アジアでは仏教徒がイスラム教徒を攻撃することがあるし、日本の戦時下には、国家が海外で神社参拝を強制した。だから、どんな時、どんな条件で不寛容な状況が生まれるかを教訓として考える方が大事だ。

一方、我々が使っている「寛容」も、啓蒙主義以降の政教分離を前提とした西洋近代の概念であることを自覚すべきだろう。宗教を「括弧」に入れて個人の内の問題とし、それで多様性を維持しようとする姿勢だ。実はユダヤ教、キリスト教、イスラム教にも、西洋近代の寛容が生まれるはるか以前から、寛容に関する対応概念があった。支配・従属関係はあったにせよ、「寄留の民」を大切に

するといふ姿勢は古くからあった。近代的な寛容だけで多様性が維持できないなら、こうした古くからの概念を含めて寛容を考え直す必要があるだろう。

ばならない。だが、キリスト教の歴史が常に暴力の連続であったわけではない。

いずれにしても、少子高齢化が進む日本には、今後さらに東南アジアのイスラム教徒やカトリックのフィリピン人などが労働者として入ってくる。そろそろ島国的な発想の一神教批判を卒業し、異なる他者と向き合い、日本で少数派が居心地よくいられるために何ができるか、考えていく段階に来ているのではない

か。



氏 博 克 原 小 教授 大 社 志 同

一神教にはユダヤ教、キリスト教、イスラム教があり、それぞれの中もまた多様なのに、十把一からげに「一神教は不寛容」と言うのは、多様な実態を見ようとしないう議論であり、問題がある。ヘイトスピーチと同様、敵視する相手に分かりやすいレッテルを貼り、単純化・平板化して批判するやり方だ。これでは「イスラム教は怖い」といった虚像をまき散らすことになってしまふ。

もしある宗教の暴力性を批判するなら、歴史的、具体的に事実関係を検証し、

例えば「十字軍時代のキリスト教のこういう行為は暴力的だった」と言わなければ

例える「十字軍時代のキリスト教のこういう行為は暴力的だった」と言わなければ

例える「十字軍時代のキリスト教のこういう行為は暴力的だった」と言わなければ

例える「十字軍時代のキリスト教のこういう行為は暴力的だった」と言わなければ

例える「十字軍時代のキリスト教のこういう行為は暴力的だった」と言わなければ

(文化部 植田滋)